

15日 火曜

ルカ

12:35 腰に帯を締め、あかりをともしいなさい。

12:36 主人が婚礼から帰って来て戸をたたいたら、すぐに戸をあけようと、その帰りを待ち受けている人たちのようでありなさい。

12:37 帰って来た主人に、目をさましているところを見られるしもべたちは幸いです。まことに、あなたがたに告げます。主人のほうで帯を締め、そのしもべたちを食卓に着かせ、そばにいて給仕をしてくれます。

12:38 主人が真夜中に帰っても、夜明けに帰っても、いつでもそのようであることを見られるなら、そのしもべたちは幸いです。

12:39 このことを覚えておきなさい。もしも家の主人が、どろぼうの来る時間を知っていたなら、おめおめと自分の家に押し入れられはしなかったでしょう。

12:40 あなたがたも用心していなさい。人の子は、思いがけない時に来るのですから。」

12:41 そこで、ペテロが言った。「主よ。このたとえは私たちのために話してくださるのですか。それともみなのためなのですか。」

12:42 主は言われた。「では、主人から、その家のしもべたちを任されて、食事時には彼らに食べ物を与える忠実な思慮深い管理人とは、いったいだれでしょう。

12:43 主人が帰って来たときに、そのようにしているのを見られるしもべは幸いです。

12:44 わたしは真実をあなたがたに告げます。主人は彼に自分の全財産を任せるようになります。

12:45 ところが、もし、そのしもべが、『主人の帰りはまだだ。』と心の中で思い、下男



や下女を打ちたたき、食べたり飲んだり、酒に酔ったりし始めると、

12:46 しもべの主人は、思いがけない日の思わぬ時間に帰って来ます。そして、彼をきびしく罰して、不忠実な者どもと同じめに合わせるに違いありません。

12:47 主人の心を知りながら、その思いどおりに用意もせず、働きもしなかったしもべは、ひどくむち打たれます。

12:48 しかし、知らずにいたために、むち打たれるようなことをしたしもべは、打たれても、少して済みます。すべて、多く与えられた者は多く求められ、多く任された者は多く要求されます。

このたとえは主イエス様がやがてさばき主として地上に来られてときのことを意味しています。それは思いがけないときに来るので、常にその用意をしている必要があるということです。

主イエスの十字架を受けいれて救われたクリスチャンは、みなが平等で一律に報いを受けると早合点する人もあるかもしれませんが、実は違います。赦しと救いを全く同じように受けるとともに、報いの点では違うのです。天に宝を積むことやこの世での行いが違います。それとともに、「忠実な思慮深い管理人」であることも報いの違いを生み出すのです。

とは言え、神なる主は全知のお方ですから、その日まで私たちの行いが分らないということはありません。ですから主イエスがまだ来られなくても、私たちの今の備えは無駄ということはありません。”もしも今日主イエスが来られたら”という感覚を忘れずに生活する習慣を身に付けましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

